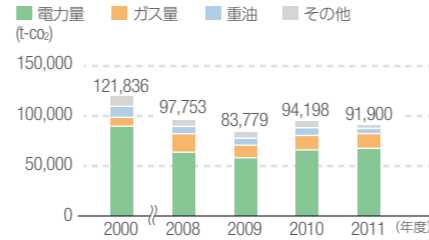


2011年度環境目標と実績

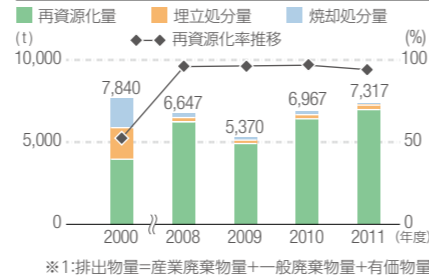
評価 ○:達成 △:一部達成 ×:未達成

2011年度目標	2011年度実績	評価
1. ダウン・サイジングの実施		
生産革新/技術革新により環境負荷を削減し、利益創出およびCO ₂ 削減を実現する	東京:96のテーマで活動を実施 所沢:38のテーマで活動を実施	
業務目標(方針管理)などから環境につながるテーマアップ 省資源、省エネルギー、省スペース、リサイクル性向上、化学物質の使用量削減、稼働率向上など	シチズン時計では、マイクロ化の活動成果を「みなし効果」の考えで算出	○
2. 環境配慮型製品の新しい環境価値の創出		
製品または部品の新たな環境配慮内容の発掘	具体的な取り組みに至らず 一部で有害化学物質の代替や 化学物質管理の維持を実施	△
“エコドライブ”の新しい価値創出(時計)	海外のエコマークの取得	
3. 環境リスクの低減		
グローバル環境法規制への対応	改正情報を収集 REACH規則、米国規制、中国規制など	○
省エネ法への対応 CO ₂ (電力+ガス)の削減(原則:年1%) 東京:CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲55%(10,730t-CO ₂)	1999年度比▲57%(10,144t-CO ₂)	○
所沢:CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲13%(10,809t-CO ₂)	1999年度比▲18%(10,206t-CO ₂)	○
廃棄物削減活動の推進 東京:産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲79%(114t)	○
所沢:産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲39%(103t)	○
4. 環境社会貢献活動による地域社会とのコミュニケーション強化		
	CSR活動で実施	○

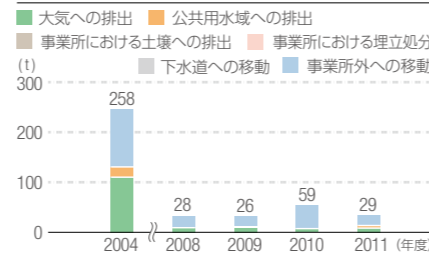
シチズングループのCO₂排出量の推移



シチズングループの排出物量*1の推移



PRTR物質の排出量・移動量の推移



事業活動と環境負荷

INPUT	国内		海外	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
総エネルギー使用量(GJ)	2,290,208	2,290,208	14,423,934	14,423,934
水使用量(千m ³)	1,705	1,705	1,591	1,591
水の循環的利用量(千m ³)	397	397	17	17
化学物質使用量(t)	637	637	1,669	1,669
容器包装材料使用量(t)	634	634	1,400	1,400

OUTPUT	国内		海外	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	91,900	91,900	856,776	856,776
NOx排出量(t)	6	6	3	3
SOx排出量(t)	5	5	3	3
排水量(千m ³)	1,337	1,337	973	973

	国内		海外	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
BOD排出量(t)	39	39	19	19
COD排出量(t)	7	7	680	680
排出物量(t)	7,317	7,317	5,374	5,374
埋立量(t)	240	240	3,282	3,282

[INPUT][OUTPUT]データには、「物流・販売」「使用」「資材調達」段階の環境負荷は含まれていません 対象期間:2011年4月1日~2012年3月31日 集計範囲:国内22社、海外12社

データ編: 従業員 (グループ主要18社)

新卒採用状況

	2009年度	2010年度	2011年度
男	89名	65名	90名
女	35名	19名	26名
計	124名	84名	116名

中途採用状況

	2009年度	2010年度	2011年度
男	14名	35名	37名
女	11名	28名	13名
計	25名	63名	50名

育児休職制度利用状況

	男	女	計
2009年度	0件	57件	57件
2010年度	3件	42件	45件
2011年度	4件	39件	43件

介護休職制度利用状況

	男	女	計
2009年度	0件	3件	3件
2010年度	0件	0件	0件
2011年度	0件	1件	1件

障がい者雇用状況

	2009年度	2010年度	2011年度
雇用率	1.69%	1.91%	1.89%

※2011年6月1日現在雇用率

特定健診および特定保健指導実施状況(32事業所)

	2009年度	2010年度	2011年度
特定健診率(本人+家族)	75.5%	78.5%	79.5%
メタボリック症候群該当率	10.8%	11.1%	12.1%
メタボリック症候群予備群該当率	11.9%	11.5%	11.8%
特定保健指導実施率	20.3%	23.0%	32.6%

災害発生状況

	2009年度	2010年度	2011年度
死亡事故数	0件	0件	0件
休業事故数	10件	6件	8件

CSR報告書は、CSRへの取り組み状況の報告だけでなく、企業理念の実現のための取り組みに対するコミットメントの発信ともいえます。本年も、そのような視点から意見を述べたいと思います。

株式会社インテグレックス
代表取締役社長

秋山 をね 氏



1. 評価したい点

本年の報告書では、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の具現化のための指針となる「シチズングループ企業行動憲章」に基づき、それぞれの活動に携わる従業員の姿を通じて、CSRへの取り組みが報告されており、「事業活動のすべてで、全員参加で取り組みを進める」という姿勢がより強く感じられます。

活動については、9条からなるグループ企業行動憲章の項目ごとに、事業活動における具体的な取り組みだけでなく、それを実践する従業員の思いが、「顔」と「声」で紹介されており、わかりやすく、親しみが感じられます。特に、第8条の中国での体制革新・風土改革、人材育成の取り組みは、現地の問題・課題が率直に語られ、その解決のために、どう考え、何を実践しているかが報告されており、海外展開を進める中での、現実の悩みや難しさとそれを乗り越えるための努力が身近に感じられる興味深い内容でした。

「特集」では、「自然災害への対応」が取り上げられています。東日本大震災において、日頃の対策が功を奏したこと、また、復興に向けて、そして、タイの洪水においても、海を越えてグループでの助け合いが行われており、国内外で全員参加が実践されていることが印象的でした。

2. 今後に期待したい点

グループ企業行動憲章に基づく活動報告は、わかりやすく、評価できますが、憲章の各項目における具体的な取り組み目標や目標達成に向けた活動の進捗状況の報告も期待します。達成目標を設定し、それに合わせた活動実績、次年度の活動目標

を掲載すると、成果がわかりやすくなると共に、PDCAが回り、継続的な活動にもつながります。

また、海外売上比率がグループ全体の6割を超える流れの中で、全従業員の63%を占める海外の従業員に理念を浸透させていくことが不可欠です。理念の共有・理念への共感を高める活動を続けると共に、浸透状況や海外も含めた従業員の意識実態を定期的に検証することも重要といえます。特に海外においては、リスクマネジメントの観点からも、現地の状況に則した活動の展開が必要です。グローバル化に伴うCSRの取り組みについて、報告の一層の充実を期待します。

3. 未来に向けて

社会から尊敬される企業であるためには、3つの「I」が必要とされます。何よりも「Integrity(インテグリティ)」。企業理念の実現に向けて、言っていることとやっていることを一致させるという組織の誠実さが重要です。次に「Innovation(イノベーション)」。社会から必要とされる企業として持続的に成長していくためには、新しい価値創造のための工夫、改善、改革が必要不可欠となります。そして最後に、企業と人、企業と企業、企業と社会、それぞれがもてる力を発揮しながら一体となる「Ichien-yugo(一円融合 二宮尊徳)」が重要となり、「一円融合」こそがCSRの目的であるともいえます。

持続可能な社会を築いていくために、永く広く「市民に愛され市民に貢献する」企業として、自社の強みを活かして、何ができるのか、何をすべきなのかを考え、今後も「シチズン=一円融合」の取り組みを続けられることを期待します。

第三者意見を受けて

秋山様には、貴重なご意見を承り、誠に有難うございます。当社の新中期計画立案に向け経営方針として「真のグローバル企業」、「活力のある会社」を目指すという提言が出されています。グローバル化により当社グループのリスクマネジメント環境も変化しており、CSRの取組みは海外を含めた従業員の自立的な活動環境の整備が重要であると考えています。ステークホルダーの皆様との対話を深め、それぞれのもてる力を発揮しながら一体となり、企業理念の実現、企業価値向上に努めてまいりたいと思います。

シチズンホールディングス 監査・CSR室長 伊藤 正範

